



フィグ・ヤーパン通信

第 38 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.38

発行日 2009 年 4 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

2009 FIGU-JAPAN 講演会が開催されました

去る 3 月 15 日に、スイス基幹会員のリッカウアー夫妻を日本に招聘して講演会が開催されました。この講演会は、ビリーの著作の中でも最も重要な一冊とされている『Kelch der Wahrheit (邦題：真理の杯)』のドイツ語初版が完成したことを記念して行われたものです。FIGU スイスでは、『真理の杯』について、次のように紹介しています。

2008 年 2 月 5 日、BEAM(「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー)は、彼の最大で最も重要な著作を、わずか 5 ヶ月と 16 日、すなわち 171 日で完成させました。この著作『真理の杯』は、今後あらゆる世紀を越えて永遠に生き続け、その道は遠く宇宙にまで及ぶでしょう。私たちの地球においてもこの著作を迅速かつ効率的に広め、その効果を発揮して、これに触れた人々が自らの価値を認識できるようにしなければなりません。この著作は世代から世代へとその力が発見されて、人生のあらゆる状況で人々の友となり、同伴者となるでしょう。(『真理の杯』翻訳のためのご寄付のお願い)より)

当日は全国からおよそ 60 名の熱心な読者の方にお集まりいただきました。シモーネ・リッカウアー氏とシュテファン・リッカウアー氏からそれぞれ「連想」「真理の杯」と題して講演いただいた後、出席者から活発な質疑応答がなされました。講演会終了後には、ティーパーティーが開催され、演者への質

問や、読者間の交流が行われ、会場は終始和やかな雰囲気になりました。講演会の開催に当たって、リッカウアー夫妻からは次のようなメッセージが寄せられました。

今年も FIGU-JAPAN より講演会へのご招待を頂き心から嬉しく思います。日本の聴衆の皆さんに真理の教えについてお話できるのは、私たちに与りまして大変光栄なことです。特に日本の聴衆の皆さんが偏見や先入観を持つことなく霊の教えと向き合っていることを、私たちはこれまでの講演会の経験から存じています。シモーネ H. リッカウアーは、「連想」について発表します。連想は全ての人間に友人および助力者として力になる一方で、否定的な力も及ぼします。彼女の講演は全ての人々にとって、中立的・肯定的な考え方によって自分自身の思考過程をコントロールすることを学ぶ契機となるはずで、シュテファン A. リッカウアーは、新しく出版される書籍『真理の杯』の内容、歴史、背景について説明します。『真理の杯』は、地球外の会見者プターによれば非常に重要な意味を持った本です。それは、「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤーと FIGU の異例のミッションの頂点を飾る作品です。この本には預言者の全ての教え、すなわちエノク、エリヤ、イザヤ、エレミヤ、イマヌエル、モハメッド、そしてビリー (BEAM) が説いた真理と霊と生命の教えが記されています。

新刊書『仕事やその他の有意義な活動をしないと人間は墮落する』のご案内



仕事やその他の有意義な活動をしないと人間は墮落する
(水瓶座時代出版刊)

ドイツ語原文対訳

装丁：A6判

頁数：36 ページ

定価：200 円（税込み）

重量：30 グラム

この作品でビリーは、人生を無為に過ごす事の弊害について述べています。本書は、誰にとっても運命は、自らの手で築くものだと思わせてくれる、人生についての力強い示唆に富んだ小冊子です。

ここでは、本冊子に収められた一部を紹介します。

無為に過ごしていると人間は自墮落になるばかりか、高齢者や定年退職者の場合にはいやおうなく老衰を招く。根本的に怠惰、無為、仕事嫌い、さらには、あらゆる種類の定年退職も非常に悪い観念である。というのは、何もしないと人間は心理的、意識的、そして肉体的に病み、有用な社会的機能を果たせなくなるからである。

男も女も老いも若きも、人生を無為に送る人間、年金生活を送っている人間、退職した人間は、ただ何もしないで漫然と日々を過ごすにとどまらず、大抵アイデンティティーの危機に陥る。人生を無為に送る人間が、往々にしてアルコール依存症や薬物依存症に陥り、反社会的な弊害を来す一方、退職して何もしない人間は、自分を無益な者と感じる。そして人生を無為に過ごす非常に多くの人間は、多くの定年退職者と同様に生きる喜びを失い、自殺を切望する。特に年金生活者の自殺率は非常に高く、他のすべての年齢層を上回っている。

事実、人生を無為に過ごしているあらゆる年齢層の男女、若者、年金生活者、ありとあらゆる種類の病苦に悩んでいるすべての人間にとって、人生の肯定につながる新しい役割像を持つことが不可欠である。そうしたイメージは、主として理性的な活動や

相応の課題によって形成され得るものである。

人生を無為に過ごし、あるいは退職後何もしない人間は、人生や老化を、激しい戦いや大量殺戮と見なすという誤りを犯している。だがそのようなことはおよそ現実とも真実ともかけ離れている。そのような考え方は、ひとえにこれらの人間の誤った生活態度から生まれたものだからである。本当のところ人生は、戦いでもなければ大量殺戮でもなく、喜びであり、進歩と発展の道程である。自分の人生や境遇を嘆く人間は誰も、それが健康上の問題であれ、人間関係のトラブルであれ、金銭の欠乏であれ、自分で自分の人生を、自分の境遇を、自分の態度、そして自分の仕事または無為を形成しているのである。なぜなら、誰にとっても運命は自らの手で築くものだからである。したがってもし彼らが苦しんでいるとしたら、彼らはその苦しみや財政的な困窮、他の人間、すなわち伴侶、友人、知人またはその他の同胞との争いを、自分で生み出しているのである。人間が病気になった時も、自分の病気に対する自分自身の姿勢や態度によって、不機嫌で愚痴っぽく自己憐憫的にもなり、あるいは勇敢で、忍耐強く、治癒と回復の希望を持ち続けるのである。

.....

このようにして日常は、もはやプログラムされたシステムや、競争によって刻印されることはなくなり、それによって、創造力という点でそれまで隠されていた発展の可能性が現れることも稀ではない。この新しい自由は、男にも女にも、若者にも年金生活を送っている老人にも等しく訪れる。実際、すべての人間は自分で自分の生活を良い方向に変え、理性的な仕事やその他の有意義な活動によって、生活を新たに展開させることができるのである。なぜなら誰にとっても運命は、自らの手で築くものだからである。

「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー
セミヤーゼ・シルバー・スター・センター

2008年6月20日0時58分

新刊書『宇宙の深遠よりープレアデス／プレヤール人とのコンタクト』のご案内



宇宙の深遠よりープレアデス
／プレヤール人とのコンタクト
(水瓶座時代出版刊)

装丁：A5判 ハードカバー
頁数：500ページ(口絵20ペー
ジ、本文480ページ)

定価：3,000円(税込み)

重量：765グラム

『宇宙の深遠よりープレアデス／プレヤール人とのコンタクト』は、ただいま水瓶座時代出版から発売中です。本書は、徳間書店から2001年に出版された『宇宙の深遠よりー地球外知的生命プレアデスとのコンタクト』を改題した改訂第2版です。なお、徳間書店版は既に絶版となり、書店でお求めいただ

くことができません。

本書には、世界的に著名なUFOコンタクティであるビリー・マイヤーの生い立ちや、困難な任務を引き受けることになった経緯が明らかにされています。さらに、比類なく鮮明なUFO写真、プレアデス／プレヤール人から託された証拠物件などについて、カラー写真も豊富に収録されています。また、これから地球で生じる出来事について高次の霊形態から伝えられたメッセージも、明瞭な言葉で記録されています。

世界中に衝撃を与えた、いわゆる「ビリー・マイヤー事件」の全容を知ることができる決定版です。装いも新たに出版された改訂新版を、この機会に是非お求め下さい。なお、本書は一般書店では扱っておりませんので、フィグ・ヤープンまで直接お申し込みください。

プレヤール人の名前と概念について留意すべき重要事項

2008年11月26日の第475回コンタクト記録からの抜粋

ビリー：……ところですので最近二度ほど持ち出した問題だが、プレヤール人の名前、さらに一般にプレヤールの概念や呼称に関してどのように扱うべきか。君は前にそれらは元の形のまま変えてはならないと言った。たとえば、コンタクト記録などを他の言語に翻訳する場合はどうかね。

プター：たしかに私はそう言った。我々によって与えられたプレヤール語で書かれ、話されることが、名前や概念が持つ意味にとって絶対に必要だからだ。さもないと完全に誤った意味形態が生じ、それらの名前や概念の本来の価値と調和しなくなる。

ビリー：ということは君たちの言語の名前や概念は、地球のすべての言語で常に同じように発音されるべき、あるいは発音されねばならないということになる。つまりそれらの名前や概念が英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、日本語、ロシア語、その他何語で用いられようと、我々のドイツ語やスイスドイツ語のように発音されなければなら

い。そうしないと名前や概念の改竄^{かいざん}が生じることになる。

プター：それが私の言葉の真意だ。たった一つの音節や文字を変えるだけでまったく別の意味になり、たいていの場合否定的な意味か無価値が生じる。私の娘の名前セミヤーゼを例にとれば、名前の最後のEを英語ではIと発音する。セミヤーゼは我々プレヤール人が古代リラ語の方言から取った非常に古い名前だ。「半女神」を意味する。しかし英語でなされているように名前の最後のEがIで発音されると、非常に邪悪な意味が生まれる。セミヤーゼの「セム」は古代リラ語で「半」、「ヤーゼ」は「女神」を意味するが、「ヤージ」は「呪いの女神」を意味する。そのため英語でセミヤーゼの名前の最後のEをIと発音されると、セミヤージは「呪いの半女神」という名前になる。我々の言語や方言においても、語のたった一つの文字が誤って、つまり書かれた形とは別の様に発音されると、こうした誤った名前や概念の価値もしくは無価値が生じる。

ビリー：それはドイツ語でも同じことだ。どんな名前や概念も、書かれているとおりに読まれ、話される場合にのみ正しく、それらの本当の価値を持つ。名前を短縮する場合もこれと似た事情にあり、意味はしばしば否定的なものに変わる。悪い例を挙げるなら、アンドレスまたはアンドレアスの名前が「アンディ」と短縮されると、「汚れ犬」もしくは「汚れた犬」を意味する。だから私が思うに「プレーレン」という概念についても同様に、プレーレンはまさに「プレーレン」という発音以外に発音されてはならない。ところで気象状況について尋ねられたので質問したいのだが。ここ当面はどのような状況になるかね。

プター：君が語ったことは正しい。プレーレンの概念について言えば、我々の星系もやはり古代リラ語の非常に古い方言によって名づけられている。「プレ」は「七元性」を意味し、「ヤーレン」は「法則」に

等しい。この星系の住民として我々はプレーレンと呼ばれるが、個人を表す場合に限りこの概念の末尾のNは変化するか、または省かれて、女の場合は「プレーラ」、男の場合は「プレーレ」となる。「プレーレン」という概念は「七元性の法則」という価値を有し、「プレーラ」という名称において「ヤーラ」は「女住民」というような意味であり、したがって「七元性の女住民」を意味する。「プレーレ」では後半部の「ヤーレ」は「男住民」を意味し、したがって概念全体は「七元性の男住民」を意味する。しかし、もしプレーレという語の末尾がIで発音されると、「破壊」という無価値が生じる。プレーレンとプレーレのいずれの概念も、発音を変えると、否定的なもの、もしくは無価値を生み出す。この概念の末尾が誤ってIで発音されて「プレーリ」となると、語部分「ヤーリ」に「破壊」の価値が付加されて、この概念から「七元性の破壊」という無価値が生じることになる。……

ビリー著『真理の杯(Kelch der Wahrheit)』の紹介

『真理の杯』の前書き

ハンス・ゲオルク・ランツェンドルファー

宗教や秘教に刻印された、あまりに非論理的でほとんど検証不可能な教義、半真理、邪説およびドグマとは反対に、『真理の杯』においては創造と自然の原理が比喻や、明解な解説や、論理的に検証可能な説明によって教えられる。教えに富んだ記述は、カルト宗教の不明瞭さ、見え透いた半真理、そして法外な非論理とは正反対である。それらは信者や宗教幹部たちがなすすべがなく、途方にくれ、死の不安にひどく怯えていることを誤魔化し隠蔽する。それらは聖職者が本当の真理に無知で不安を抱き、それから逃亡していることを明白に示している。この本に含まれている数多くの解釈や力強く語られた教示は、カルト宗教、偽治療師、秘教の自称預言者が通常弄するような理論的な常套句や、虚しい決まり文句や、内容空疎な言葉とは無縁である。本書の過去と現在の教えとその記述は、意識に効き目のある香油であり、心をリフレッシュさせる清涼剤である。

耳に快く意識の滋養となる素晴らしい文章を読む時、関心のある読者の感情生活はいやがおうにも最高の満足感と、畏敬の念と、生きる喜びの波で満たされる。真の探求心を持ち、創造を意識しているすべての人間の中で、預言者の愛情にあふれ啓発的であると同時に厳しく確然とした言葉は、意識の調和と満足感と安心感をもたらす。同様にそれらの言葉は、個人の探求と追求の成果として、創造および自然の教えと自分自身の認識および思考過程とを一致させ、その正しいことを裏づける。それによって本書の創造に基づく教えは、個人的な経験および貴重な体験として、全般的に快い心の状態を生み出す。『真理の杯』は、長く忘れられ失われたと思われていた故郷にとうとう帰ることに等しい。それはまた広大な宇宙の長い放浪の旅の果てに、郷愁にさいなまれた星間旅行者の前に、突如として青く輝く地球惑星がその抗いがたい姿を見せることに等しい。

本書はテーマが非常に多岐にわたり、内容が複合的で、しかもその真正な由来のため、現代の人間に

とってはきわめて理解しにくいものとなっている。それらは短い文章や簡潔な言葉で書き表せるものでもない。これは地球上では類例のない教科書であり、このような形で存在するのはプレイヤー同盟に属する他の世界や惑星だけであろう。つまりノコデミオンの創造の教えに関する知見を持ち、教義の真髄を数千年前からアーカイブや記録に保管してきた世界である。『真理の杯』は人間を、微細素材世界と粗大物質世界を結ぶ環として描いている。地球人のありとあらゆる生活実践分野に対する数多くの創造の法則と掟、指針および助言が、それらの原初の形で提示される。真の創造の法則性と原理とに結び付いているという熱情を、自分自身の中にまだ見出していないか、または作り上げていない人間にとって、このような形で表現された解説とその指導は古めかしく思えるかもしれない。預言の記述は数千年前の形のまま新時代にも通じ、驚くまでに時間を超越している。すでに何千年も前に、新時代のカルト宗教の悪質な変節と危険な意識の奴隷化が報告され、それらの意識と心を破壊する力や影響について警告されているという事実も興味深い。また過去の預言者たちは、すでに何千年も前に人口過剰の問題も取り上げている。最も広範囲に及ぶ教示は、人間性、人間相互の関係、互いに尊重しあう交わり、尊敬および男女の平等に当てられている。結婚、性的友好と精神的友好、同性関係と異性関係、人間の性的特質、離別および離婚について、さらに敵意、罰則、変節した殺害または死刑に関する事案なども解説されている。同様に広い範囲で生命の創造的な意義、進化の使命、自分自身の探究、追求および学習の重要性についての多数の指導も見出される。創造と自然の原理、法則性と掟の基礎に立ち、自分自身の無常、生成と消滅、死の意義と目的、死後の生、悲しみと再生、自殺または自殺^{ほうじよ}幫助の関連についても、論理的に検証可能な仕方で解説されている。全体としての発展の高い価値、性格および人格の育成、個人の認識、経験および洞察の修得も多くの節で中心テーマとなっている。さらに、さまざまな栄養、健康および衛生、労働または慰安のような個人的な補償などのテーマに関する教示も教えに含まれている。

教派信者、えせ教師、秘教徒、個人崇拜および布

教活動によって意識を損ねる危険について、またペテン師、闇商人、秘教徒、そして欲にからんだあらゆる種類の詐欺師による^{ひょうせつ}霊の教えの剽窃にも警戒を促している。すでに数千年前に伝承の中で7人の預言者の系譜の最後の預言者と、その比類ない最終的な教示および著作のことが示唆されている。これらの古い伝承にはFIGUと預言者の「受託者」も言及されている。メンバーの平等、そして個人崇拜、不遜、自己過信の回避、あるいは預言者またはその協力者の誤った崇拜も明確に指摘されている。この他にも真の人間性にかかわる生活実践的な数多くのテーマが次から次へと連なり、この著作を自由な助言と形式ばらない教示の無尽蔵の宝庫としている。しかも読者もしくは人々を何らかの破壊活動によって布教し、暴力によって影響を与え、あるいは彼らに実行や服従を強制するといった重いくびきを負わせることはない。『真理の杯』は、一人の真の預言者であり告知者の知識、英知、技量、能力に基づいている。これは反駁^{はんぱく}し得ない事実であるが、現在の意識水準の地球人は、無理解、偏狭、誤評価、真理に対する盲目、カルト宗教による幻惑、そして先入観から、誤って「ビリー信仰」と見なしている。しかし現在の進化水準にある地球人は誰一人として、メモリー水準にある古代の遺産を掘り起こす可能性、能力、技能、そして知識と英知を持ち合わせていない。また地球人は誰一人として事実関係や背景を、これほどの複合性や射程距離で、しかも年代学的に厳密に把握することはできない。この書物が、途方もない^{ぎまん}欺瞞的な空想や、放縦な性格に基づく意図的な誤導の産物でないことはきわめて明らかである。実のところそれは、類まれな技量を持った一人の人間のライフワークであり、真の預言者のミッションと比類ない使命の一部であり、地球人には未知の秘められた宇宙のメモリー水準の源から取り出したものである。これら真理のテキストにおいて、ごく普通の靴屋の息子であるエドゥアルト・アルベルト・マイヤーの真正さと正統性がまたもや証明された。「ビリー」およびBEAMと呼ばれる新時代の真の告知者および預言者は、新時代の地球人のために、そして地球外の民族のために計り知れない貢献をしている。ところがこの世界では多数の矛盾、対立、そして人間の物質的な思考の皮相さ、さらに意識の盲目、創

造の諸関連と本当の真理に対する無理解が際立っている。地球人は、創造の法則と掟、指針と原理に対して目と感覚をしっかりと閉ざすことを得意としている。地球人は環境保護や自然の法則について語り、人里離れた山や湖や手付かずの自然の中に安らぎと平和を求める。人間は花、植物、動物、風景など自然の外面的な美しさで自分の感覚、心および感情を養いリフレッシュさせる。それにもかかわらず人間はこの時、自然の本来の本質、すなわち人間をも拘束する根源力を見つめ、自分自身の行動をこれらの原理に合せることを忘れていた。人間は自分自身の存在を自然の一部として認識することを望み、身の回りを美しい自然で飾り、庭や公園を手入れし、自然保護区域を設ける。それにもかかわらず人間は常に自然の法則と掟を無視して、自然を暴力的に支配しようとする。今日に至るまで地球人は、本当に創造とその法則、原理および掟の一部であることを学ばなかった。どんな小さな石でも湖や池や小川の底に落ちて気づかれないことはなく、きっと水に感づかれるに違いない。だが、あの「系譜」の最後の預言者も人口過剰の荒野に孤独に呼ばれる者として人間の只中にとどまっているが、往々にしてほとんど注目されない。彼は70年前(1937年)から、その後(2008年)75億人を越えた地球人の只中に入り、少なからず世間を騒がせたにもかかわらずである。地球人は華麗な由緒ある場所ヒンターシュミットリュティを意識することなく、そのすぐ傍で彼らの毎日の仕事を片付けている。彼らはこの驚くべき場所およびその公然の秘密と真にかかわることなく、愛し合い、学び、働き、生まれ、そして死んでいく。この知識と英知と真理の教えの比類ない源であり砦は、宇宙の深遠からも果てしなく遠い世界や惑星に住む地球外の人間が探し訪ねて来る。だが、すぐ間近の人間はこの場所とそこに住む預言者を避け、あるいは危害を加える。この素晴らしく美しい小さな国の中で、小さい市や町、村や部落のすぐ近くで、多くの地球人にとって想像もつかないような事柄や出来事が本当に起きているのである。しかしこの事実は、すでに数千年も前に預言者エノクにより預言されていた。その時エノクは、新時代の預言者すなわち「宝の番人」が、「エルベツト」と呼ばれる平和の国で、小さいグループの人間に教示および指導す

ることによって、その大きなミッションを開始するのであらうと示唆した。彼が1937年2月3日にスイスのビューラッハに誕生したことにより、地球人類がほとんど気づくことなく、地球の歴史に大きな転回が訪れた。「真理の静かなる革命」が始まったのである。しかし古代の預言者は『真理の杯』第1章137節で、新時代の出来事を賢く予見し認識して、次のように伝えた。

「まことに真理の教え、霊の教え、生命の教えを伝えた多くの告知者、預言者がいた。これらを範として受託者が続き、預言者の真理の公然の印(証拠)を提示し、それらが本当であることを証言したが、あなたがたは彼らに、預言者にも受託者にも耳を傾けようとはしなかった。あなたがたは、自分で望んだわけでもないのに、真理の教えの使者があなたがたのところに来る度に、傲慢にも告知者、預言者、それらの受託者、そしてその他の真理の教えの使者を相も変わらず嘘つきと罵り、詐欺師として扱い、そして彼らを撲殺しようとしないうだろうか。」

この一文は、深いが非常に悲しい真理を述べている。この真理を、蹄鉄の谷間の真理の場所で預言者と共に生き仕事をしている、毅然として揺らぐことのない勤勉な人々よりも良く理解できる者はいないだろう。彼らは、理性のない者や愚か者や無思慮な者が、真の預言者に加えたさまざまな不当の扱いや誹謗中傷の証人である。しかし彼らは預言者を手本として、人々の理不尽や根拠のない攻撃、たちの悪い思い込みや無理解に絶望することなく、無分別と接して生きることを学んだ。チューリヒ高地のテス溪谷の懐にあつて万人に門戸の開かれた場所では、信じがたい未来的な出来事が、FIGU(境界科学・精神科学・UFO研究の自主共同体)のメンバーの日常生活を刻印している。すなわち預言者BEAMが地球外の人間と本当に会見し、無数の比類ない教えが生まれているのである。この一事だけでも今後何世紀にわたり、この惑星の大部分の人間の想像力を超えていよう。(次号に続く)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ 講演会が開催されました □

巻頭にも掲載しましたが、去る3月15日にリックウアー夫妻を招いて講演会が開催されました。当日は全国から60名の読者の方にお集まりいただきました。通訳者には、フィグ・ヤーパンの出版物の多くの翻訳を手掛けてくださっている明瀬氏に依頼しました。あらかじめ入手した原稿の翻訳など、入念な準備によって完璧な通訳をしていただくことができました。リックウアー夫妻は3泊4日の厳しいスケジュールでの来日となりましたが、講演会以外

にも、今後の日本におけるミッションに関するフィグ・ヤーパンとの打合せなども精力的にこなしていただきました。

フィグ・ヤーパンでは、講演会の様子を収録したビデオを作製して販売する予定です。ご参加いただけなかった皆様や、当日の振り返りなどに活用いただけましたら幸いです。発売日や価格のご案内につきましては、次号フィグ・ヤーパン通信にてお知らせする予定です。



□ 『真理の杯』 翻訳出版支援のお願い □

FIGUスイスが各国語に翻訳すべき最も重要な書籍として、翻訳を奨励している『真理の杯』につきまして、今後も本誌『フィグ・ヤーパン通信』等でご紹介する予定です。本書の円滑な翻訳出版を進めるために、フィグ・ヤーパンでは、ドイツ語原書から日本語への翻訳・出版に向けてのご支援をお願いしています。なお、本書はビリーの意向によって、印刷前の翻訳原稿を各章ずつインターネットに掲載して公開する特殊な出版計画を予定しています。現在はまだ翻訳が開始されたばかりですが、今後は進展があり次第、随時フィグ・ヤーパン通信あるいはホームページにて掲載する予定です。本書の翻訳出版活動に対する読者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

□ これから出る本 □

今年初めての翻訳出版として、『宇宙の深遠より—プレアデス/プレヤール人とのコンタクト』を水瓶座時代出版より発行しました。高次の霊形態から

のインスピレーションを受けてビリーが書き下ろした『アラハト・アテルザータ』については、6月頃を目処に出版予定で準備を進めています。さらに、『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(5)』については、順調に校正作業が進められており、夏頃に出版のご案内を差し上げます。文芸社から再版予定の『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』については、ただいま旧版をもとにした校正作業が進められています。『真理の杯』につきましては、多くの読者の皆様のご協力によって、翻訳作業を開始することができました。今後用語集の作成や原著者ビリーへの確認等を繰り返しながら翻訳完了に向けて翻訳者と共同で作業を進めていきます。なお、この書籍については、ビリーの意向によって、各章の翻訳が完了した時点で随時ホームページを通じて翻訳原稿を公開する予定です。これは、本書をできるだけ早く世に広める必要があるためだそうです。フィグ・ヤーパンでは、本書の出版に向けて引き続き努力して参りますので、今後もご支援くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

出版物のご案内

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)

価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)

価格 2,000 円 (税込 送料別 430 グラム)

新刊! ■宇宙の深遠よりープレアデス／プレヤール人とのコンタクト

価格 3,000 円 (税込 送料別 765 グラム)

■心

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■瞑想入門

価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)

■わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■生命の哲学

価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■霊と肉体における生

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ビリーの少年時代の著作

価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

■預言者エレミヤとエリヤの予告

価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)

■エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

新刊! ■仕事やその他の有意義な活動をしないと人間は墮落する

価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)

■『切なる願い』DVD ビデオ版

価格 2,000 円 (税込 送料別 110 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧くださいか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 38 号 (無料)

発行日 2009 年 4 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2009 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.